



電気火災にご注意

火まもり君の
火災調査
ファイル

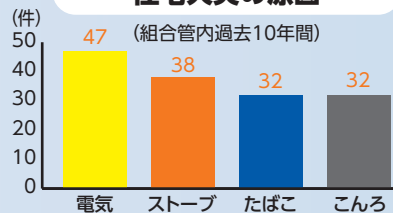


「電気」が原因の火災が増えています

電気が原因となった住宅火災は、他の原因と比べて最も多く、本組合管内では過去10年間で47件発生しています。

火を使わない製品は火災の危険性が低いと思われがちですが、誤った方法で使用したり、故障した状態で使用を続けたりすることで、火災になることがあります。

住宅火災の原因



火災になった事例の紹介

普段の生活で使用している電気プラグやコードの誤った使用方法により火災になるケースをご紹介します。



電気コードの上に家具などが長時間置かれることで電気コードが傷み、発熱やショートによる発火から火災になる場合があります。



たこ足配線で許容量を超えて電気機器を利用するとテーブルタップが発熱し火災になる場合があります。



コンセントとプラグの隙間に積もった埃が湿気を含むと差し刃の間に電気の通り道ができてしまい、発火し火災になる場合があります。

リチウムイオン電池使用製品を安全に使用しましょう

モバイルバッテリーや携帯扇風機などの充電式の家電製品に内蔵されているリチウムイオン電池からも、火災が発生しています。

総務省消防庁によると令和7年(全国)にはリチウムイオン電池等から出火した件数は1,297件、そのうちモバイルバッテリーの出火件数は482件(37.1%)となります。

▶ 高温下での使用や外部からの衝撃で火災に

夏場、高温になる車内にモバイルバッテリーや携帯扇風機を放置することで火災になる事例が多くあります。また、落下などで外部から強い衝撃を受けた製品を使用し続けることも危険ですので、異常を感じたら使用しないようにしましょう。

高温注意



高温環境下にモバイルバッテリーを放置しないこと

高温環境となった車内に放置したモバイルバッテリーから出火したケース

衝撃注意



落下させたモバイルバッテリーは使用しないこと

落下させたモバイルバッテリーを使用し続け、出火したケース



住宅用火災警報器

アンケートについて

設置状況アンケート

ご協力をお願い

住宅用火災警報器の音を聞いたことはありますか？

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見し、逃げ遅れを防ぎ、被害を最小限に抑えるために有効です。

本組合では、火災から命を守るために、警報器の設置状況を調査しています。

皆様の回答が、火災による死傷者を減らす大切なデータになります。

住宅用火災警報器
アンケートはこちらから

